

千石を受け、幸いで亦來仕し、文祿三年武藏守に叙爵し、前後増祿二萬三千石に至り、後越中増山の守將となり、又大聖寺の役に利政に従うて鏡丸の攻撃に與つた。慶長十六年退老して巨海齋宗半といひ、養老俸五千石を受けたが、十九年五十三歳を以て歿。法益茂庵宗繁。

**ナカガハミツタ** 中川光忠 通稱大隅。光重の末弟で、その養子となつたもの。初め前出利政に仕へ、後利長に仕へて千五百石を受けたが、光重の退老後その祿の中一萬七千石を襲ぎ、慶長十八年致仕し、京師に歿した。その致仕したのは、光忠の室は利家の女福姫であつたが、それを離別した爲であるといはれる。光忠は側室に三子を擧げたが、その長嫡を光重の女の嫁した神谷信濃守守孝の養子となした。後に神谷式部元易といはれるものはである。

**ナカガハヨリタタ** 中川寄忠 通稱多仲・八郎右衛門。父は長裕。寶曆七年遺知五千石を襲ぎ、定火消・寺社奉行・公事場奉行に歴任し、天明五年歿。

**ナカカハラコウ** 中河原郷 元祿三年三月金澤古寺町福藏院空膳の筆記した小橋天神由來書に、『元來當社氏子地と申すは、香林坊の小橋より才川橋・古寺町近郷は、往古河原にて、五ヶ之庄・富樫之庄・石浦之庄、右三ヶ庄之出合之河原に而有之故、當院より中河原郷と唱へ、産子繁榮之祈禱札相配。』とあるが、之を中河原郷といふは私稱である。  
**ナカカハラマチ** 中河原町 金澤の舊町名。

昔は此の附近都べて犀川河原であつたが、前田利常の時坂井就安に命じて悉く町地とし、總名を河原町と呼び、その町筋三條の中央なるを中河原町というた。今の片町は即ち是である。享保頃には中河原町を單に河原町と書いてある。それは西方の河原町が既に古寺町と名を變じたからであらう。

**ナカカマヤ** 中釜屋 能美郡濱の内的小字。門次郎兵衛。初め組外に列し、後定番御馬廻に轉じ、料紙奉行・能美郡御代官に歴任したが、明和八年四月八日亂心した養子次右衛門の爲に殺害せられ、次右衛門も亦即座に自害した。時に七十八歳。

**ナカケチダイ** 中口壺 金澤の城下の内、大手町・西町・十間町・中町・殿町等を總稱して中口又は中口壺といふことがあつた。壺は區域の義である。  
**ナカグミ** 中組 鳳至郡當目の内の小字。  
**ナカクミ** 中組 ↓チユウグミ 中組。  
**ナカグロヒデアリ** 中黒秀有 山城の人。父は彌兵衛。秀有は彌右衛門又は彌兵衛と稱し、晩年道隆と號した。初め加藤貞泰に仕へ、次いで石川忠總に轉じて大坂の役に従ひ、又處士となつてその子秀成と共に島原の役に筑前福岡侯黒田忠之の陣に懸り、寛治元年前田綱紀に仕へて二千石を賜はつた。寛文元年退老し、六年隱居料二十人扶持を受け、十一年歿、享年八十八。子孫藩に世襲する。

**ナカグロヒデナリ** 中黒秀成 太左衛門と稱する。秀有の嫡男。初め筑前福岡に在つて、黒田忠之・光之の二人に歴仕し、五百石を受け、物頭役となつたが、寛文元年父退老の時

加賀藩に來り仕へ、祿二千石を襲ぎ、馬廻組に列し、作事奉行を経て足輕頭に進み、延寶二年歿した。  
**ナカグロヒデモト** 中黒秀基 通稱六左衛門。太左衛門秀成の嫡子で、祿千五百石を襲ぎ、餘の五百石を弟八右衛門秀芳に配知した。元祿八年その飛騨高山に在番した時は御馬廻番頭であつたが、享保十九年隱居して暫無と稱し、二十年七十四歳を以て歿した。

**ナカゴホリ** 中郡 越中高岡から富山邊を國の中部であるとして近古の方言に中郡といふたが、固より俗稱で區域は確定せぬ。加賀藩になつては水見庄以外の射水郡を中郡といふた。併し岡本慶雲の末森記には、射水郡全部をさして中郡としてゐる。寛文中に至り水見庄と中郡とを合はせて射水郡に改め、明治廿九年改めて射水郡から水見郡を分立せしめた。

**ナカサイ** 中齋 鳳至郡上町野郷に屬する部落。元祿の郷村名義抄に、昔は神和住のうち山本方と中齋方があつたのを、元和六年に中齋方を分離したものであると。  
**ナカサイガハ** 中齋川 鳳至郡に在る。中齋と神和住との入合嶺山から流出し、天坂で二又川に落合ふ。落合までの流程四軒五許。  
**ナカザカ** 中坂 金澤小立野なる嫁坂と新坂との中間なる坂道であるからこの名がある。

**ナガサカ** 長坂 白山の尾添口登路で、天池から上に在る坂路。長さ四軒。  
**ナガサカ** 長坂 白山の岩間温泉を経て登る時は、長さ約四〇〇米の坂路があり、それを長坂といふ。

**ナガサカシン** 長坂新 石川郡富樫庄に屬する部落。寛文十一年非人小屋に收容してあつた窮民若干を移して、長坂山の麓に新開せしめたに起る。是を以て特に下免であつた爲、邑民の生計豊かに、遂に大村となつた。  
**ナガサカマチ** 中坂町 金澤の舊町名。小立野中坂の路筋をいふ。國事昌披岡谷に載せた金澤町名付に嫁坂町・中坂町と記し、越登賀三州志來因概覽附録にも新坂町・中坂町嫁坂町と記するが、延寶金澤圖にはまだその名がなかつた。今は新坂町の一部となつてゐる。

**ナガサカヤマ** 長坂山 鳳至郡石休場の部落から東南に當る山。高さ四二七米。地質輝石安山岩。  
**ナガサキ** 長崎 能美郡板津郷に屬する部落。  
**ナガサキ** 長崎 鹿島郡能登島庄に屬する部落。

**ナガサキホ** 長崎保 能美郡に在つた。東寺の承和九年の文書には加賀國長前保とあり、北野神社の長祿二年の文書には長崎保に作つて、それら神社の領地があつた。又親長記文明九年九月の文書には法勝寺領があつた如くに見える。後世長崎村がある。  
**ナガサキホ** 長前保 ↓ナガサキホ 長崎保。

**ナガサダイクンシヨウ** 永貞遺訓抄 一名を自修若壯老學術記といひ、有澤永貞の自傳で、子孫に遺したものである。  
**ナガサハ** 長澤 羽咋郡堀松庄に屬する部落。  
**ナガサハ** 長澤 鳳至郡三井郷に屬する部落。

ナカ